

その42

自転車の道

「明治緑道基本計画」という計画をご存じですか？これは、昭和50年度に、現在のサイクリングロード「明治用水緑道」の整備が始まる際、市民の生活環境を改善することを目的として制定したものです。この計画を制定した背景について、当時の広報あんじょうでは次のように伝えています。

『今日の車社会は、一面ではわた

したちの生活を豊かにし、力強く支えていくれますが、もう一面では、環境を破壊し、わたしたちの生命すらおびやかしています。車社会への反省。それは大きな社会問題ですが、まず「いかにして自然との調和を取りもどすか」をみんなで真剣に考えなければならぬときではないでしょうか。』(昭和51年1月1日号より抜粋)

今から30年ほど前のことですが、当時から環境への関心があったことがうかがえます。また、この計画では、当時としてはユニークないくつかのテーマを定めていました。具体的には、耕作地帯には並木の中の道、住宅地帯には公園、学校付近には通学路、工場地帯には緩衝緑地帯というように、周辺の環境に合わせた性格づけを。そして、植栽には、季節感が感じられるもの、小鳥を呼ぶことができるもの、桜の名所とするなどと設定しています。

「市民の生活にうるおいと希望を」という願いを込めて作られたサイクリングロード。現在の様子はどのようになっているのでしょうか。

現在、市内を通るサイクリングロードは5路線。いずれも、バイプライン化された明治用水の上部を走っています。なお、5路線の総延長距離は、約45km。直線で安城市から静岡県まで行けるぐらいの距離になります。

豊田安城自転車道(22km)

5つのサイクリングロードの中で最も長い道です。豊田市水源町から始まり、安城市の中心部を経由し、藤井町の国道23号に到達します。鉄道や主要道路との交差が立体化され、安全に走れるようになっています。

西井筋自転車道(11・9km)

豊田市広美町で豊田安城自転車道から分岐。里町を通り、知立市・刈谷市へ向かいます。途中、知立八橋のカキツバタや、東海道の松並木などの見所もあります。

西高根用水自転車道(4km)

浜屋町で豊田安城自転車道から分岐。名鉄新安城駅付近の住宅街を通り、知立市へ抜けます。浜屋町の日吉神社前では、親水施設による、水のせせらぎも楽しめます。

中井筋自転車道(3.6km)

池浦町で豊田安城自転車道から分

岐。JR三河安城駅までを結んでいます。途中、篠目町では、沿道の水路に、ホタルの幼虫を放流しています。ホタルが乱舞する中、サイクリング、ということも可能になるかもしれませんね。

花ノ木用水自転車道(3.4km)

横山町から榎前町を結んでいます。田園地帯を通過する道で、途中には、四阿やトイレもあります。自転車でデンパークへ出かけるには、便利な道です。

現在のサイクリングロードを見渡すと、30年前に定めたテーマについては、ある程度達成しているように思えます。しかし、ただの「自転車で行ける道」としてではなく、「自転車を生活に利用するための道」という視点で見た場合、まだまだ足りない部分があるのが現状です。市は、今年度、自転車によるまちづくり「エコサイクルシティ計画」を策定しました。将来は、自転車に乗ってどこにでもスイスイ行ける、そんな街になっているといいですね。

